

すぎのこ

166

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2022 4/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
狭山研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入前695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
滝沢研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演だより／園からの声／新作紹介「たのきゅうのうわばみたいじ」／2022年度公演予定／制作だより
4面 日本芸術文化振興会助成事業／賛助会員募集／影絵紙芝居・人形劇DVDのご案内／演育チャンネル ほか

<http://www.suginoko.org/>

E-mail: support@suginoko.org

変化の時代に必要な 「変える勇氣」 「変えない勇氣」

令和2年4月7日に新型コロナウイルス対策に基づく措置として、緊急事態宣言が発令されてから2年が経過しました。

今まで常識だったことは非常識となり、非常識が常識となる大きな変化が、世界中で起きました。このことであらゆる分野で例外なしに変化が起き、変化の幅も大きく、変化のスピードも速く、十年分の技術革新が一気に進んだとも言われています。

そこで私たちが目の当たりにしたのは、革命的な変化で、旧来のサービスや考え方、業界そのものが完全に覆され、置き換わり、時代遅れとなりました。

非接触販売、オンラインショッピング、非接触配送、QRコード、毎日のリモート会議など、私たちの日常生活のあらゆる側面で変貌しました。

まだ今後数カ月は、私たちの業界にとって厳しい時期が続くと思いますが、十年先を見据えた考え方を取り入れる組織は、逆境を乗り越えるだけでなく、大きな発展を遂げていくことになると思います。

演劇などのエンターテインメント業界は、リアルな顧客体験が最大の価値でした。

しかしコロナ禍の影響で人との接触が三密（密集、密接、密閉）となり、非接触化の促進が求められました。人との接触が抑制されるコロナ禍との相性が悪いことから、新型コロナウイルスの感染拡大を抑制するうえで、活動や集客を停止すべき不要不急の産業とされ、営業活動の自粛に追い込まれることとなりました。

その結果、リアルでのエンターテインメントが無観客ないし、観客数を大きく制限される中でのライブ配信に重点が置かれるようになりました。

しかしライブ配信はあくまでパソコンやスマホなどの画面越しにパフォーマンスを見るものであるため、視聴体験だけを切り出してみれば、リアルに劣ってしまい、顧客に対して価値を打ち出しにくいという課題も浮き彫りになりました。

特に児童演劇を幼稚園、保育園に届けてきた私たちの劇団にとっては大きな課題となりました。

すぎのこ芸術文化振興会の理念でもあります「子どもたちにナマの舞台を届ける」というナマの演劇を届けることができないことから、配信動画を提供してきましたが、動画配信だけでは、一体感やコ

理事長 大場 隆志



ミュニケーションが伝わりやすく、リアルとの違いが大きすぎるということで、なかなか受け入れていただくことができませんでした。映像配信によるサービスを試行錯誤した経験で得たことは、リアルでの顧客体験を提供しつつ、映

像配信やXR（仮想現実）の活用で、更に多くの顧客にサービスを届けることが必要だということです。ネット越しでも、よりリアルなやり取りが可能なXRの活用は、今後に向けて注目されていくと思います。

すでにモノづくりやサービス業などの現場においては、状況を共有しやすく、画像情報による指示も出しやすいことから専用機器による活用が広がっています。

エンターテインメント業界においてもXRは、マネタイズがしやすいこともあり、エンターテインメントをバーチャルな空間でもリアルと同等か、それ以上に体験できる

手段として活用が進むと考えられています。

これにより非接触型社会に文化やエンターテインメントを取り入れることができる同時に、仮想現実の世界が豊かになり、快適な環境づくりに役立つものと考えられます。社会全体でXRを活用する機運が高まるのではないかと思います。

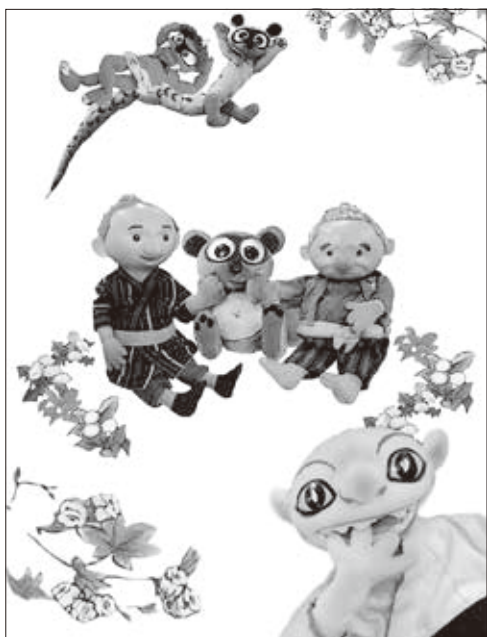
十年時代が進み、もう後戻りすることはできないことから、私たちの業界でも、事象面においては「変える勇氣」を、理念面においては「変えない勇氣」をもって、加速変化の時代の道を切り拓いていきたいと思っています。

巡回公演だより

このつきなあに
なあに
班

「このつきなあに」の作品は、これまでに何度も再演してきました。何人もの俳優が演じてきた、すぎのこでも思い入れのある作品です。

昨年4月の稽古期間、自分がこの作品を演じるにあたり、他の人の演じた「このつきなあに」の動画を見返しました。同じ作品でも、演じる俳優によって、登場人物の性格、お話全体の雰囲気が変わります。例えばたぬきの役にしても、やんち



やなたぬき、元気いっぱいなたぬき、心優しいたぬき、と俳優の個性が出ていて興味深いです。

これまでみんなが作ってきた「このつきなあに」を大切にしながらも、今のメンバーならではの「このつきなあに」を作りたいと

思い、この一年間上演してきました。メンバーでアイデアを出し合い、互いの「間」を感じ、呼吸を合わせて演じた、私たちの「このつきなあに」。子どもたちの目にはどんな風に映ったでしょうか。

お休みします。つきに再演するときは、どんな作品に仕上がるのか、楽しみにです。

最後に「このつきなあに」に携わったみなさま、観てくれた子どもたち、先生方、ありがとうございました。

『また あえるひま で げんきでね。たぬきより』

トン吉とカラス

班

「トン吉とカラス」は人と動物が自然と共に生きる、共存共栄を描いた作品です。

カラスは嫌われている鳥です。人形劇で地方を巡回していると、様々なカラス対策グッズを見かけます。僕の近所でもゴミ捨て場を荒らされないよう対策しています。が、頭の良いカラスはほんの隙間を見つけて食べ物を探り、ゴミを散らかしてしまいます。都心で数が増え、巣を駆除しようなんて動きまであります。

食育の一環で畑や田んぼを作っている施設もあるので、農作業に精を出すトン吉に共感する子どもも多い。稲穂を食べてしまうカラスに、「ダメ」と叫んだりします。けれど害虫のイナゴを食べたり、赤ちゃんたちにごはんを運ぶカラスの姿もあります。トン吉とカラス



スが仲良しになった最後の場面では、子どもたちもしんみりしています。

いない方がいい生き物なんていない。子どもたちと一緒に、僕も学んでいます。

はだかの王様

班

早いもので、今年も春がやって来ました。私は寒い冬もそんなに嫌いではありませんが、やっぱり春はウキウキします。

昨年度は、夏は東京、冬は北京でオリンピックがあり、何だか特別な年だったと思います。

たくさんさんの競技を観戦して、選手たちからはたくさんさんの元気と感動をもらいました。その中で今一番心に残っているのが、カーリング女子の日本チームです。彼女たちは、試合中一つ一つのショットを、コミュニケーションをとりながら



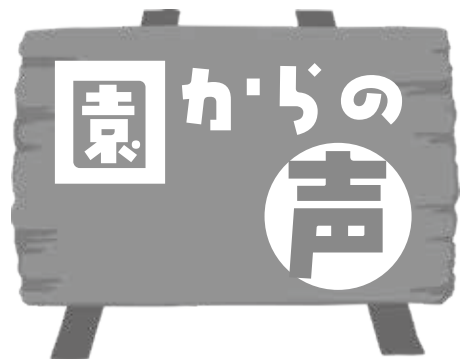
から笑顔で楽しんでいました。たとえミスが出て、みんなで話し合い最善の策を考える、そしてまた笑顔。観ている気持ちも温かくなりました。子どものようにチームを楽しんで、それでいて相手チームに敬意をはらい、たたえることのできる大人のチームだなと思いました。

これは私の想像ですが、このような理想的なチームになるには、きっと多くの方々の力添えがあったからでしょう。彼女たちの成長を考え、言いづらいことを言ってくれる方々が周りにいたに違いありません。彼女たちは多くの助言をしっかりと受け止め、力に変えたのだと感じました。

私などは自分の欠点を人から言われると腹がたち、そういう人を避けたいと思いがちです。でもそこに真実が隠れていることがある。そのことはわかってはいるのですが、なかなか素直に受け入れられないものです。

1年間「はだかの王様」に関わり、作品を通して多くを学ばせてもらいました。子どもの心で本当のものを見て、大人の態度で真実を受け止めていきたいなど、今思っています。

さて「はだかの王様」令和4年度は、巡回公演最後の年です。この3年間ご観劇いただいた方々、本当にありがとうございました。今年度もたくさんの方々に観ていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。



このこぎなあとこ

■小松原保育園(神奈川県座間市)

2本立てで、子どもたちが楽しめる長さだったのがよかったです。子どもたちが身を乗り出して観ている姿、大笑いしている姿を見て、楽しめていたのだと感じました。内容も知っているお話で、繰り返しやりのやりとりがあつてわかりやすく、お話の世界に入り込みやすくて印象に残る経験となりました。

季節も感じられました。準備中に看板がテラスにあり、子どもたちは読みながらワクワクしている様子でした。

■代々木教会附属シオン幼稚園(東京都渋谷区)

すてきな時間をありがとうございました。コロナの拡大のなかで中止になりそうになか、やはり生の舞台の体験は特別なものです。開催できて、本当によかったです。

お話の世界にどんどん引き込まれていく子どもの姿が、とても印象的でした。終演後、お迎えに来た親に感想やストーリーを伝える姿もあり、楽しんだのだなと嬉しくなりました。子どもたちの豊かな育ちのために、コロナに負けず、頑張ってください。

トン吉とカラス

■みほの幼稚園(埼玉県ふじみ野市)

このお話に初めて触れる子どもも多かったようですが、トン吉とカラスの掛け合いにワクワクしながら最後まで楽しく見させていただきました。

人形の動きやセリフに面白さを感じ、笑ったり、手拍子をして楽しんでいました。最後はほっこりとして、とても温かい気持ちになれたすてきな内容でした。

■若泉幼稚園(埼玉県本庄市)

3〜5歳の子どもたちが見やすい作品で、楽しく観劇できました。視覚だけではなく、たくさんのお道具も出てきて、耳でも楽しむことができましたよかったです。

最初のカバとのやりとりも面白く、子どもたちの印象にも残ったようです。

トン吉とカラスの関係性について「お互い様だよ」と話す子もいて、子どもなりにいろいろ感じながら観ていたようです。

はだかの王様

■芸術学園幼稚園(高知県)

コロナ禍で思うようにイベントができないなか、ご配慮等ありがとうございました。

「はだかの王様」は、特に幼児組の子どもたちが、公演後にお話を振り返り笑い合ったり、王様の話をして楽しむ姿が見られました。楽しい時間をありがとうございました。

■須恵保育園(山口県)

子どもたちのよく知っている「三びきのやぎ」のお話では、迫力あるトロールや大きいやぎの登場に大喜びでした。

「はだかの王様」では、楽しい歌や笑いのある場面も交えてのストーリー展開に、子どもたちも引き込まれて観ていました。

コロナ禍で、こうした観劇の機会が少なくなるなか、しっかりととした感染対策をされ、安全な公演

のおかげで、子どもたちもとても楽しい機会をもつことができました。

おむすびころりん

■勢和保育園(三重県多気郡多気町)

コロナ禍のなか、感染対策を考えて行っていたいただき、ありがとうございました。

作品の主題はもちろんです、「なかよし」でも子どもたちが大笑いし、久しぶりに皆でほっこりする時間を共有できた気がしました。

■遠山幼稚園・遠山保育園(宮城県宮城郡七ヶ浜町)

子どもたちと毎年楽しみにしています。今回は、犬とたぬきの「なかよし」が始まり、たぬきのおとぼけに子どもたちも大ウケで、笑っぱなしで人形劇の楽しさを感じていました。「おむすびころりん」もワクワクして観ていました。手遊びを覚えて劇中歌があると手や体でリズムをとったり、場面の展開に「どうなるのかな？」とハラハラしたり、最後まで見込えがあったようでした。

年齢ごとに楽しんでる部分が見られ、終了後もたくさん感想が聞かれました。記念写真や人形のしくみ等についての質問にも対応していただき、楽しい時間となりました。

ももも劇場(山形県)

■東京都児童館

2回公演で、ゆったり楽しむことができました。ありがとうございました。

1歳児親子には難しいと思いましたが、演技力に引き込まれ、静かに注目して観られました。入室を嫌った子も、暗くなったり、話が進むと気になり、最後まで観ることができていました。

保護者からも、子どもを集中させる話力に感心したという声が高く、大好評でした。

新作紹介

「たのきゅうのうわばみたいじ」

今回初めて演出をさせていただくことになりましたが、新作「たのきゅうのうわばみたいじ」には、浅からぬ縁があります。

この作品は過去作品のリバイバルなのですが、実は初演のときには俳優を務めていました。そんな作品が初演出作品となったことを、とてもうれしく思います。

役者として大成したたのきゅうが、体調を崩した母親のもとへと帰っていく途中でうわばみに会う、という内容ですが、見ている人の立場によっていろいろと受け取るものが変わる作品だと思っています。

子どもたちは、たのきゅうとうわばみのやり取りや戦いで盛り上がることができ、先生方には、たのきゅうの家族のために自らの好きなものを捨てる覚悟を持つという、いわば

自己犠牲のようなものを感じ取っていただけたと思います。この作品を見てくださる人たちに、昨今の情勢によって溜まった鬱憤やストレスを吹き飛ばせるものを届けられたらと思います。

(太田 令)



昨年近畿地方にお邪魔した時、ご施設の先生から「最近子どもた

おむすびころりん

班

ちの体力が落ちている」という話をうかがったことがあった。そして「コロナウイルスが流行り、自粛などで家の中で過ごす時間が増えたから」と続けておっしゃった。しかし、それはきつと子どもたち

ちに限った話ではない。我々だってそうだ。環境が変わってしまった故に、生活のスタイルが、今までとは比べられないほど変化した。今までの当たり前がそうではなくなってしまった。変わらない価値を子どもたちに伝える。その思いで全国のあちらこちらに赴いては、人形劇を観ていただいていたが、コロナの終息の兆しはなかなか見え、歯がゆさを覚える一方である。

た大地のようなものではないかとふと思った。水が溶け出す春を待ち、柔らかなった大地の間から芽を出す菜種のように、今は力を蓄えておく必要があると思えてくるのだ。いつか来るであろう、来るはずの春を心待ちにして、ただ絶望するのではなく、その思いをも糧にして、より良いものを多くのの人に伝えていきたいと思う。

もぐもぐ

班

新年度がスタートしました。初めて幼稚園・保育園に通うことになったお友達も、たくさんいると思います。毎日、元気に遊んで、たくさん食べて大きくなってください。

さて、今年度も、もぐもぐ劇場は、首都圏を中心に、元気な人形劇をお届けいたします。

ペープサート

動物あてクイズ(一緒に歌いましょう)

大根・人参・ごぼう

絵話

三匹のこぶた

証城寺の狸ばやし

人形劇(小作品) 5分〜15分

仲良し 犬の話(チロチャ



制作 だるま 〇子豚のプーちゃん・子狸ぼんちゃん (中作品) 15分〜25分 〇かもとりごんべえ 〇ねずみの嫁入り 〇小坊主ずいてん (大作品) 35分〜40分 〇そっくりのくりのき(原作・やなせたかし) 〇このつぎなにあ ※上演時間により、作品を選ぶことも可能です。 上演時期により、うかがえない作品もあります。詳しくは、お問い合わせください。

2022年度公演予定

Table with columns for Region (地域), Period (時期), and specific plays like 'おむすびころりん', 'はだかの王様', 'たのきゅうのうわばみたいじ'.

※関東を中心に「かもとりごんべえ」「ねずみの嫁入り」「三匹のこぶた」「小坊主ずいてん」「そっくりのくりのき」「ルルとロコの宝さがし」なども上演しております。お気軽にお問い合わせください。

なつて遊ぶことが大切です。兄弟が少ない昨今は、その役割を、保育園・幼稚園・こども園が担っていると感じます。日々子どもたちの命を守っていらっしゃる先生方のご苦勞は、はかり知れませんが、昨年度も、厳しい状況のなか、お招きいただいた園の先生方、保護者の皆様、そして、残念ながらご覧いただけませんでした。先生方に深く感謝申し上げます。

子どもたちの成長する力を信じたいと思います。先日、いつも人形劇をご覧いただいている先生から「子どもたちは、日々新しいから」というお言葉をいただきました。 歴史から学び、経験を踏まえながら、今までの価値観に固執せず、子どもたちは、大人のやること、周りの様子を敏感に察知しながら、「なぜ? どうして?」という問いかけを繰り返して、納得のいく選択をして成長していきます。 見習いたいです。 わくわくする季節です。桜をはじめ、たくさんのお花も咲き始めるでしょう。子どもたちに「ともだち」たくさんできまますように。そして、「ともだち」と一緒ににぎりを食べることができまますように。もちろん人形劇も楽しんでいただけると嬉しいです。

(榎本 千里)

独立行政法人 日本芸術文化振興会 助成事業



トン吉とカラス

昨年より実施していた日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金による助成事業、令和3年度「トン吉とカラス全国巡回公演」を完了いたしました。

本作は共存共栄、思いやりと優しさをテーマに、トン吉という少年といわずらカラスのやりとりを描いた作品です。ご観劇いただいた園様では、「温かい気持ちになれる」「思いやる心を考えるきっかけになった」というお声をたくさんいただきました。人形劇を通して、子どもたちがそれぞれ何か思いを感じてくれたのなら、大変嬉しく思います。

また、本作では、BGMを楽器による生演奏や効果音を用いて構成しています。こちらも好評のお声を多くいただき、特に大正琴は子どもたちが初めて目にし、新鮮だったようです。

「トン吉とカラス」は、今年度は北海道地方、九州地方、関東地方を巡回いたしました。まだまだ大変な状況ではございますが、昨年度も人形劇巡回公演が行えたこと嬉しく思います。



日本芸術文化振興会のご支援に厚

そっくりのくまのき

昨年より実施していた助成事業、人形劇「そっくりのくまのき」を完了しました。



芸術文化振興基金 助成事業

たかし氏原作の「そっくりのくまのき」は、初演以来好評をいただき、再演を繰り返してまいりました。そして今回、新たに映像演出を取り入れ、作品の世界観や臨場感が更に感じられる新演出として制作し、令和3年12月より上演をスタートいたしました。

舞台演出の中で映像を使用することが見慣れた昨今ですが、専用の機材や映像製作に費用がかかること等の課題もあり、劇場公演ではない巡回公演のような小規模の作品において映像を使った演出をすることは難しい状況でした。しかし今回、日本芸術文化振興会様に助成いただき、映像を使った演出が実現いたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響により観劇がかなわない園様も数多くいらっしゃいましたが、今後も本作品は上演を続けてまいりますので、ぜひお問い合わせをいただければ幸いです。

DVDのご案内

すぎのこではDVDの販売を行っております。

〈影絵紙芝居〉

影絵紙芝居のDVDは、ひとつのDVDに2作品入っております。

声優による音声入りのお任せバージョンのほか、カラオケバージョンもあります。台本もございませので、映像と音楽に合わせて読み聞かせにもご利用いただけます。



1本3300円です。

セット販売でお得なサービスもありますので、詳しくはお問い合わせください。

〈人形劇〉

コロナの影響でうかがえなかったご施設の子どもたちにも人形劇を届けたいと思い、作成しました。

- 「三まいのおふだ」
- 「はだかの王様」
- 「おむすびころりん」

1本3300円です。

5月31日までの期間限定で3本セット7000円です。ご用命をお待ちしております。

賛助会員を募集しています！

賛助会は、すぎのこの理念・目的に賛同する個人や団体の方々に、当財団の活動を側面から支援していただくものです。

1. 賛助会に関する基本事項に関しては、定款第45条によるものとします。

2. 賛助会は、当法人の目的に賛同し、事業や業務を支援する個人・団体賛助会員からなりその内容は次のとおりとする。

- (1) 賛助会費を納める「会費制賛助会員」
 - 個人 年額 3,000円 以上
 - 団体 年額 10,000円 以上
- (2) 知識、技能、労力を提供する「技能制賛助会員」
 - 個人 年間 3日間以上
 - 団体 年間 5日間以上

3. 賛助会員になろうとする者は、申し込み用紙に必要事項記入のうえ、会費（技能提供予定書）を添えて当法人事務局に提出し理事長の承認を受けなければならぬ。

4. 納入された会費は管理運営費並びに賛助会運営費に使用する。

5. 賛助会員が退会しようとする場合、所定の退会届に必要事項記入のうえ、当法人事務局に届け出る。

6. 会費制賛助会員が二年以上会費を滞納した場合、技能制賛助会員が二年以上知識、技能、労力の提供がなかった場合は、自然退会として扱う。

7. 理事長は、賛助会員の当法人への理解や支援、賛助会員同志の意志の疎通や親睦を図るため、会員の中から若干名の世話人を選び、世話人の中から代表世話人を選任し世話人会を設置する事が出来る。

8. 世話人会が設置された場合、世話人は代表世話人の下に、前4項の目的を達成するための事業や業務を、理事長の指導のもとに企画し実施する事が出来る。

9. 賛助会員は、この法人が刊行する図書及出版物等の優先的配布、その他この法人の行う行事に関して優先的な取り扱いを受ける事が出来る。

10. 賛助会員が、会員として相応しくない行為があると認められる時は、世話人会及び理事会の、各々3分の2以上の議決により除名する事が出来る。

11. 前項の理由により除名する場合、理事長は、予め本人からの文書または口頭での意思表示を求め、理事会において最終判断をする。

12. 納入された会費及び提供された技能はいかなる理由があろうとも返還はしない。

13. この賛助会規程を改廃しようとする場合、理事会の議決を経なければならない。

演育チャンネル

演劇的メソッドを活用した、「見る力」

「聞く力」「感じる力」

「話す力」「伝える力」

を伸ばす「演育」。

そして「演育」と「演劇」の教育を目的とした、映像教育サプスク립ションサービス「演育チャンネル」のご紹介です。

演劇的な方法を活用して、子どもの心と体を健やかに伸ばしていく演育を、ワークシヨップや歌、ダンスなど、盛りだくさんのコンテンツに加え、世界名作劇場や日本の昔話などの作品を映像化して配信！無料会員期間もありますので、お気軽にのぞいてみてください！



各種SNSやっています♪

Twitter : @suginoko_puppet

Instagram : @puppet_suginoko

YouTubeチャンネル名: 「人形劇団すぎのこ」

人形劇の紹介や写真、歌などお楽しみください。ぜひ見てくださいね。



活動記録(令和4年1月~3月)

- 1/7 第三学期全国巡回公演開始
- 2/10 第21回定例理事会 於・当公益財団事務所
- 2/25 第7回臨時評議員会 於・当公益財団事務所
- 3/23 第三学期全国巡回公演終了
- 3/31 令和4年度事業計画書並びに収支予算書を内閣府に提出